

(園内研修用ワーク2)

よりよい保育のために

【ワーク2の活用法】

保育者は、一人ひとりのこどもの主体性を大切に保育を実践しています。

施設長は、保育園の管理者として運営全般の責任を担います。

よりよい保育をめざすためには、保育者と施設長がお互いに役割と責任を理解し、保育園の職員全員が協力することが必要です。

このワークでは、保育者と施設長の心がけることの一部を示すことで、お互いの立場に立って、話し合うきっかけにしてもらうことを目的としています。

こどもたちが溢れる愛情のなかで、安心して、自発的に活動し、豊かな心を育めるよう、ワーク2の項目の実践と振り返りをしてください。

1. 保育者が日々心に留めておくべきこと

① あなたの挨拶届いていますか？

笑顔で自分から挨拶をしましょう

こどもにも、保護者にも、同僚にも、気が付いたら笑顔で明るく自分から挨拶をしましょう。自分から挨拶をすることで「あなたのことを受け入れる準備ができていますよ」というメッセージを相手に伝えることができますし、いつも自分からを心掛けることで、昨日と様子が違うなど相手の変化にも気づきやすくなります。

② 「わたし(ぼく)のすごい」を見逃していませんか？

1日に1つ、こどもの良いところを発見しましょう

どんな小さなことでも(「今日は一生懸命お話しをしようとしていた」「公園で落ち葉をじっくり観察していた」など)、担当するこども一人一人について肯定的な発見をする努力をし、発見したら職員間で共有しましょう。特に自分から保育者に関わろうとしない子ほど、意識を向けるようにしましょう。こどもの変化への気づきは、こどもの成長を支えていくためにも大切なことです。こどもたちに負けない感じる力、見つける力を持ち続けましょう。

③ 「今からやるよ」に気付いていますか？

こどもの見てほしいサインに気付けるようにしましょう

こどもたちは自分が何かにチャレンジしようとしている時に、保育者に見てほしいものです。「見ててね」と言える子ばかりではありません。見てほしいサインに気づき、一緒に喜んだり、一緒に残念がったりできると保育者とこどもの信頼関係が強まっていきます。こどもの「やりたい」気持ちを感じて、どのようにしたらできるか環境を整えていきましょう。

何か言いたそうにしている時も、すぐに気付いて聞く姿勢を持つことで同じような効果が生まれます。

④ あなたの得意な遊びはなんですか？

一緒に思いっきり遊びましょう

こどもたちは一緒に遊んでくれる大人が大好きです。自分たちにできないことができてすごいし、うまくできなければ面白くて仕方がありません。だから保育者も思いっきり遊びましょう。でも、楽しい時こそ、保育のプロとしての客観的な自分も忘れずにこどもたちの状況をよく把握しておきましょう。

⑤ その言葉、鏡に向かって言えますか？

感情が高まった時の言葉や行動は慎みましょう

保育者はひとりで複数のこどもを保育しています。それぞれに個性があり、感情があり、なかなか保育者が考えている通りにはいきません。保育者も人間ですから感情が高まることもあります。でも、大人の感情が高まった時に発する言葉や行動は、こどもたちに恐怖心や威圧感を与えます。ヘルプに入れる保育者に声をかけるなどして、感情が静まるまで待ちましょう。

⑥ 保護者とのコミュニケーション大切にしていますか？

保育者と保護者が一緒に子育てをしていけるようにしましょう

連絡ノートや送迎時を利用して、保育園での楽しい様子やこどもの良いところをできる限り伝えていきましょう。家での様子も聞けると保護者の思いや心配事なども知る機会になります。また、保育園での活動の様子などを写真や掲示で伝えて、こどもたちの育ちを保護者と共有できるようにしましょう。

⑦ 苦しい時、辛い時に誰かに声をかけていますか？

保育者同士が支え合える人間関係を作りましょう

こどもたちが大好きで、こどもたちの成長を見守ることができる保育の仕事に喜びを持って取り組んでいても、うまくいかずに悩んだり、心が苦しくなるような時もあると思います。がんばって乗り越えることも大切ですが、独りで考え込むうちに限界を越えてしまうのは避けましょう。保育園には同じように日々こどもたちと歩んでいる保育者がたくさんいます。少し苦しかったり、辛かったりした時に、相談したり、助けてもらえるように、お互いに日頃から声をかけ合う環境をつくりましょう。

2 施設長が日々心に留めておくべきこと

1日に1度、すべての職員に声かけをしましょう

園内のコミュニケーションは、すぐにできるものではありません。まずは、施設長から声かけをし、お互いがコミュニケーションをとりやすい環境を作りましょう。個人個人の性格もありますが、施設長が顔の表情や声のトーンを明るめにする気持ちを持つだけで園内の雰囲気が大きく変わります。

1日に1度、すべての保育室の様子を見てみましょう

日々の保育の様子を見ることで、職員やこどもの変化に気づくことがあります。特に小さな違和感のようなものを感じるがあった場合は、そのクラスの様子は注意深く見守りましょう。毎日繰り返すことで、保育者の悩みや、こどもたちの中にある不安などに気づき、保育者とともに早期に対処することにもつながります。

保護者から顔の見える施設長でありましょう

こどもたちの育ちは、保育園の中だけではなく、各家庭での子育てと合わさって成り立つものです。だからこそ、園の責任者である施設長は、保護者から近い存在であることが望ましいです。子育ての不安、園に対する不満なども小さなうちに相談してもらうことで、大きな問題になる前に解決することにつながります。

共通認識の持てる職場にする

園内研修や会議等を定例的なものだけにせず、施設長や保育者の気づきを短い時間で共有できる場をつくりましょう。何を優先して共有すべきかで園の保育方針が定まっていきます。

「おや?」「は!」カードなどを使って、語り合うきっかけを作りましょう。

※「おや?」「は!」カードとは、日々の保育の中で出会う「おや?」（疑問・悩み）や「は!」（発見・喜び）を用紙に記入し、職員室の片隅に設置したBOXに入れていき、溜まったら語り合います。大事なのは対話。まなざしの共有です！

宮里暁美先生による「草加市保育園職員研修」資料より

保育者を孤立させない

担当保育者に任せることは大切ですが、任せっぱなしにはしないようにしましょう。がんばり屋の保育者ほど息が詰まるまで突き進んでしまいます。逆に施設長が干渉しすぎることで、特に若手の保育者はうまく保育ができないこともあります。温かな気持ちで見守ることで、保育者は安心感を持って保育に取り組むことができます。決して採点者のような目で見ないようにしましょう。

施設長こそ孤立しない

施設の長である施設長は、責任も重く孤立しがちです。色々なこどもが集まる保育園においてトラブルが起きないはずありません。だからこそ普段から保育者とも、保護者とも、こどもともコミュニケーションがとれていることで、みんなでトラブルに対処できます。責任者としてはトラブルが起きないことが一番かもしれませんが、起きた時にいかに迅速な対応を園全体でとれるかが大切です。

職員の話に耳を傾けましょう

職員が悩みや相談事などしてきた時は、どんな小さなことでも、仕事をしている手を止めて聞きましょう。職員も「こんなことを相談していいのだろうか?」と不安な気持ちで話しかけているかもしれません。施設長から耳を傾ける姿勢をとってあげれば悩みや不安が小さいうちに解決できることもたくさんあります。話の内容によっては、場所や時間を変えてじっくり聞ける機会を作りましょう。